

2-3

地域福祉

ボランティア活動

ボランティア活動存続についてのとりくみ

継続してボランティア活動を行っていくには

社会福祉法人泉陽会 光陽苑デイサービスセンター

発表者：通所介護課課長 忠内 信太郎

共同研究者：通所介護課主任 久保 貴寛

所在地：東京都練馬区西大泉5丁目21番2号

TEL：03-3923-5264

E-mail：kouyouen@f3.dion.ne.jp

FAX：03-3923-5166

URL：<http://www.timelyhit.ne.jp/senyoukai/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人泉陽会が母体である光陽苑デイサービスセンターは平成3年5月に特別養護老人ホームに併設して開設、現在は通所介護、認知症対応型通所介護(両事業共介護予防を含む)を実施しております。

〈取り組んだ課題〉

- 地域に根ざした施設の取り組み
- ボランティアを継続して行ってもらう為の取り組み
- 施設とボランティアの関係を深めていく具体的な取り組みの実施

〈具体的な取り組み〉

- デイサービスの利用者を対象に(特養入居者も利用可)食堂を使用して週1回ボランティアによる喫茶店の実施。(陽だまり喫茶)
- デイの利用者が喫茶店のような雰囲気を楽しめる場所の提供。
- 地域住民でも利用が可能であり、外部とのつながりを持つ。
- 施設の行事や他のボランティアへの参加。
 - ・ 納涼祭・秋祭りでの模擬店を実施。
 - ・ デイサービスの行事やプログラムの充実。
- 誰でも参加しやすい家庭的な雰囲気作り。
 - ・ 利用者の話相手となる。
 - ・ ボランティア間のチームワークの形成。
- ボランティア懇談会、定例会の実施。
- 他施設でも利用できる受け入れ体制。

○利用者の個人情報に関しては、ボランティア個々に誓約書を取りプライバシーの保護、守秘義務の徹底に取り組んでいます。

〈活動の成果と評価〉

- 陽だまり喫茶開設当初は月に一度の実施であったが、介護保険後は食堂スペースはデイ専用スペースとの位置づけであり、プログラムの一環として実施している。
- ボランティアの名前を覚える利用者や、顔なじみの関係である利用者もいて、飲食するだけでなく利用者、が楽しめる憩いの場となった。
 - ・ ボランティアと会話することで利用者の社会性の維持が確保された。
 - ・ 利用者ボランティアの年齢が近い為親近感を持ってお互い会話ができる。
- 施設とボランティアの関係が良好でないと長くは続けてもらえない。
 - ・ 施設で懇談会を年2回実施し、施設の方針や介護の現状等を報告しスタッフとの交流もとれている。
 - ・ 施設行事には、定例会の場を設けることで担当スタッフとの事前の打ち合わせを行っている。
- 利用者と接する事でボランティアの生きがいの場となっている。

〈今後の課題〉

- ボランティアの高齢化に伴い、次の世代への引継ぎ。
 - ・ 若い世代が来てくれない。
 - ・ 子育てや身内の介護等があると、ボランティア活動ができない。
- 健康管理。
 - ・ 健康管理が維持できないとボランティアができなくなる。
- ボランティアを行う事への家族の理解。

【メモ欄】